

NHKで放映された韓国ドラマ「チャングムの誓い」を図書館で借りて、順次観ている。噂どおり良いドラマで、楽しんでいる。

主人公チャングムは宮廷の料理人から医者になると聞いている。日本での大河ドラマ（NHK）に相当する番組だと思うが、大河ドラマではほとんど武士・政治家あるいはその周辺が主人公であるのはどういうことなのだろうか。

日本にも料理人や医者等の文化人で大河ドラマの主人公になりそうな人はいる。例えば医者では、日本独自の文化が開花した江戸時代、漢方医・吉益東洞は日本的な漢方を創成し、鍼医・杉山和一は、管を使うことで細い鍼を使えるようにして、中国とは違う日本特有の繊細な鍼術を生み出した。

そして彼らの人生にはドラマがあった。吉益東洞は広島で完成させた医法をもって京都に出て、天下に獅子吼（ししく）しようとしたが、順調に進まず、人形づくりで糊口を凌ぐ貧窮のどん底に陥った。たまたま出入りしていた問屋の老婆が重病となったと聞き、頼んで診察させてもらう。その時の彼の助言が主治医である有名な山脇東洋を感服させ、その縁で吉益東洞は世に出ることができ、多くの人々を救い、難病を治すことになるのである。

一方、杉山和一は幼少の頃に失明し、鍼の道を志して、ある師に入門したが、覚えの悪さと不器用さに破門される。失意の内に江ノ島弁財天にて断食祈願し、そこで管鍼を発案した。その後、工夫・努力し、将軍綱吉の病を治し、盲人としては最高位の総検校となった。更に鍼治学問所を作って、杉山真伝流を完成させたのである。

日本の大河ドラマにこうした人物が取り上げられないのは、文化が政治より重んじられておらず、その為か、韓国のように伝統文化が現代に生きていないからだろう。鍼にしる、漢方薬にしる、韓国ではもっと一般化しているのである。私が属している会の機関誌に、以前、生活クラブ静岡のスタッフをしていた宮下くんが報告しているものを引用しよう。

韓国では、漢方を韓方と言い、漢方薬も韓方薬と言っています。一般の人には、日本よりもメジャーで、ソウル市内には京東市場という大きな韓方薬市場があります。韓国国内の韓方薬流通量の約 70%が取引され、約千店舗の韓方薬局、卸商店、韓医院、鍼灸などの医療道具専門店があり、イメージ的には、アメ横全部が漢方薬屋さんになったような所で、町全体が漢方薬の臭いでいっぱいです。また、韓国では鍼灸師養成制度が 1962 年に廃止されましたが、現在は韓医師を養成する韓医科大学が 11 校あり、6 年制で西洋医学の大学よりも入るのが難しいそうです。韓医院では韓医師が、鍼灸治療をし、韓方薬を処方するのが一般的で、鍼灸治療には保険が利き、韓方薬は実費だそうです。

韓国では、「チャングムの誓い」以上の人気を博した番組の「許浚（ホジュン）」というものがあり、若者からお年寄りまで国民的な人気をもった漢方（韓方）医の先生です。・李氏朝鮮時代、宮中の内医院にて医官として従事した後、国王の病気を治療する侍医として活躍した方です。

（2008年2月雨水）

参考：『建殊録』（吉益東洞原著・粟島行春譯註）・『杉山真伝流臨床指南』（大浦慈観）

【雑想】チャングム（1）文化・伝統

斉観堂鍼灸・氣功治療院 鈴木斉観